

令和3年度  
事業者防災訓練実施計画（案）

令和3年. 10. 5

京都大学複合原子力科学研究所

## 1. 訓練計画概要

### 1. 1 中期計画上の令和3年度訓練の位置づけ

R2年度は避難誘導等、汚染拡大防止等、緊急時モニタリング、線量評価、資機材調達・輸送を重点項目として実施した。R3年度は研究用原子炉（KUR）と他施設との同時発災時の対応に主眼をおき、避難誘導等、汚染拡大防止等、緊急時モニタリング、線量評価を加えた5項目を重点項目として実施する。汚染拡大防止等、緊急時モニタリング、線量評価の3項目は、中期計画の2年目以降において常に重点項目として位置付けている。R2年度の訓練はシナリオ非開示にて実施し多くの改善すべき課題が抽出されたため、R3年度はシナリオ開示とし、特に情報収集、通報連絡については、体制と手順の改善および要素訓練を行い効果検証を行う。また、引き続き応急復旧、BDBA\*対策における現場での練度の向上にも注力する。なお、R2年度と同様に感染症拡大防止対策の状況下を想定して実施する。

\*BDBA（Beyond Design Basis Accident）：設計上定める条件より厳しい条件において発生する事故

### 1. 2 訓練の目的

訓練は、原子力事業者防災業務計画 第2章第7節「防災訓練」に基づき、原子力防災組織の対応能力向上を目的として実施し、原子力防災組織が原子力災害の拡大防止に有効に機能することを確認する。また、前回の総合訓練で抽出された課題の改善を検証する。

### 1. 3 主たる検証項目及び達成目標

- ・【検証項目】事故の現状、進展予測、収束対応戦略を整理し、ERCプラント班へ情報提供が行えること。  
【達成目標】以下の項目について有効性を確認する。
  - ・事故の現状、進展予測、収束対応戦略について、COP-3「事故の現状、進展予測、収束対応戦略の状況整理シート」を用いた情報整理が行えること。
  - ・COP-3シートを用いたERCプラント班への情報提供が適切に行えること。
- ・【検証項目】緊急時モニタリングについて、適切な情報収集、整理、外部への通報連絡が行えること。  
【達成目標】以下の項目について、有効性を確認する。
  - ・定期的なモニタリング情報の収集ができること。
  - ・収集したモニタリング情報を整理し、外部への通報連絡が適切に行えること。

## 2. 訓練実施日時および対象施設

### 2. 1 実施日時

令和3年11月2日（火） 13時30分～16時00分

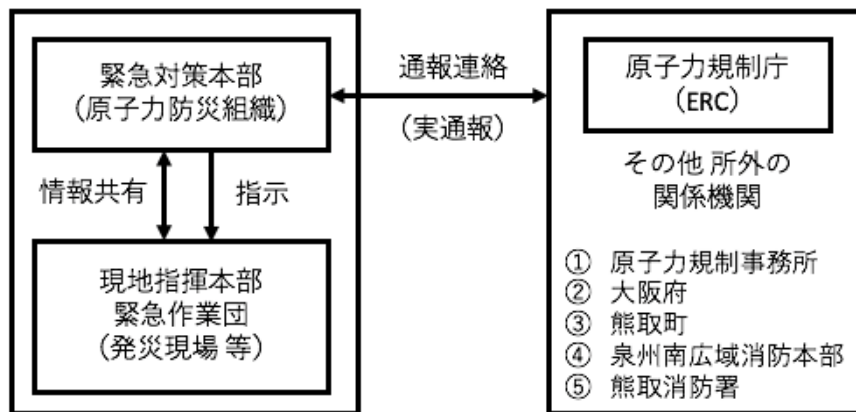
※訓練終了後に反省会を開催する。（オンライン形式で実施する可能性あり）

### 2. 2 対象施設

- ・緊急対策本部（緊急時対策所および事務棟会議室）
- ・京都大学研究用原子炉（KUR）（発災現場）
- ・京都大学臨界集合体実験装置（KUCA）（発災現場）
- ・研究棟（火災発生現場）

### 3. 実施体制及び評価体制並びに参加人数

#### 3. 1 実施体制



ERC プラント班とは ERC 対応者が電話で常時通話状態とし、迅速な応答を図る。

#### 3. 2 評価体制

所内の評価経験者もしくは内部監査委員より訓練評価者を選任し、訓練の達成目標を踏まえ予め設定した「達成基準」及びこれまでの訓練からの改善事項に対する評価を実施し、客観的な視点から改善点の抽出を行う。評価には評価基準を記した評価シートを用いる。また、学外訓練評価者として原子燃料工業熊取事業所、近畿大学によるピアレビューを実施予定（新型コロナウイルスの感染拡大の状況次第では中止もしくはオンラインでの実施も検討）。主に緊急対策本部（以下、緊対本部）の評価を依頼予定。

#### 3. 3 参加者（予定）

参加者：プレーヤ 106名、コントローラ 3名

評価者：1～2名（学内）＋ 2～4名（学外）

### 4. 訓練項目及び内容

#### (1) 参集点呼訓練

緊急事態の発生後、一斉放送等により要員を召集し、参集点呼を実施する。

#### (2) 通報連絡訓練

緊対本部内での情報共有、所内外関係機関への情報発信、ERCとの常時通話接続による情報連携を実施する。

警戒事態及び原災法10条事象、15条事象発生時に所外への実通報連絡を実施する。

#### (3) 情報収集訓練

緊対本部において現場及び現地指揮本部からの情報の収集、整理を実施する。

#### (4) 緊急時体制の構築訓練

参集した要員の役割分担を行い、緊急時体制の構築を図る。

#### (5) 避難誘導等訓練

一斉放送による退避誘導、研究所敷地内の避難所の状況把握及び避難の状況把握を実施し、緊対本部で情報共有を図る。

#### (6) 汚染拡大防止等訓練

現場作業者の汚染状況を把握し、汚染拡大防止を図る。

#### (7) 医療活動訓練

要救助者に対して汚染拡大防止を図りつつ救出・救護（医療活動）を実施する。



		ート」を改善し(9-10月)、適時に ERC プラント班へ FAX 送信するようマニュアルを修正し、情報整理担当者への教育・訓練を行う(10月)。
4	テレビ会議を用いた所内の情報共有が不十分であった。	テレビ会議のみではなく、ネットワークを用いた情報共有ツールの利用を検討し(6月)、教育・訓練を行う(10月)。
5	ホワイトボードへの記録が整理されていなかった。	ホワイトボードに記載欄を設けるなど、情報の記録・整理の手順を検討し(6月)、新たにマニュアルを整備し、教育・訓練を行う(9-10月)。
6	FAX 通報文に適切でなかったり、わかりにくかったりする記載があった。	FAX 通報文への記載方法の一部は定型化し、FAX 通報文を作成する担当者への教育・訓練を行う。(10月) FAX 通報文作成用の PC のテンプレートが最新版になっていることを定期的に確認する手順を策定する。(9-10月) 25 条通報様式の別紙の記載を見直し、次回の防災業務計画の見直し時に反映させ、教育を行う。(6-7月) ホワイトボードに記載欄を設けるなど、情報の記録・整理の手順を検討し(6月)、新たにマニュアルを整備し、教育・訓練を行う(9-10月)。 FAX 通報文のチェック体制を見直し、体制強化を行う。(6月)
7	緊急時モニタリングに関する情報提供が不十分であった。	緊急時モニタリングの結果が整理できるように、ホワイトボードに記載欄を設けるなど、情報の記録・整理の手順を検討し(6月)、新たにマニュアルとして整備し、教育・訓練を行う(9-10月)。 緊急時モニタリングの担当者の教育・訓練を行う。(6, 10月)
8	EAL51への該当・非該当の明確な判断ができなかった。	EAL51 およびその他の EAL に関しても、線量の基準が明確になるよう検討し(6-7月)、次回の防災業務計画の見直し時に反映させ、教育を行う(10月)。

## 8. ERCプラント班との情報共有に用いる資料・様式

資料1 [COP-1] 施設の状況 整理シート

資料2 [COP-2] 放射線モニタリングの状況 整理シート

資料3 [COP-3] 事故の現状、進展予測、収束対応戦略の状況 整理シート

資料4 施設配置図

資料5 京都大学複合原子力科学研究所 図面集

資料6 警戒事態該当事象の発生連絡・様式第7-1

資料7 警戒事態該当事象の状況報告・様式第7-2

資料8 特定事象発生時の通報様式・様式第7-3

資料9 応急措置の概要の報告・様式第8-1

資料10 原子力施設における計画外停止状況通報書(原子炉施設保安指示書様式)

9. R2年度訓練等を踏まえ、E R C 書架内の資料整備状況（資料リスト）

No	資料名
1	原子力事業者防災業務計画
2	原子炉施設保安規定
3	核燃料物質使用施設保安規定
4	原子炉設置変更承認申請書(研究用原子炉)
5	原子炉設置変更承認申請書(臨界実験装置)
6	核燃料物質使用変更承認申請書
7	施設配置図
8	京都大学複合原子力科学研究所 図面集（資料 1-21）

シナリオシート(令和3年度 総合訓練)

■	■	■	■	■
■	■	■	■	■
	■	■	■	■
	■	■	■	■
■	■	■	■	■
	■	■	■	■





			[REDACTED]	
[REDACTED]	[REDACTED]	[REDACTED]	[REDACTED]	
[REDACTED]	[REDACTED]	[REDACTED]	[REDACTED]	[REDACTED]
[REDACTED]	[REDACTED]		[REDACTED]	
[REDACTED]	[REDACTED]	[REDACTED]	[REDACTED]	[REDACTED]
[REDACTED]	[REDACTED]	[REDACTED]	[REDACTED]	
[REDACTED]	[REDACTED]	[REDACTED]	[REDACTED]	[REDACTED]
[REDACTED]	[REDACTED]	[REDACTED]	[REDACTED]	

